

[参考事項]

新技術名： 県北部で大玉生産可能な生食向きブルーベリー品種の選抜（平成11～17年）

研究機関名 果樹試験場鹿角分場  
担 当 者 小林香代子・浅利正義 他1名

[要約]

生食に向き、県北部で大玉生産が可能なブルーベリー品種として、‘コリンズ’、‘ブルークロップ’、‘ブルーレイ’、‘シエラ’を選抜した。

[ねらい]

ブルーベリーはその機能性が注目され、近年生産量が増加している。本試験では、生食に向き、大玉（平均果重2.0g以上）で県北部において安定生産が可能な優良品種を選抜する。

[技術の内容・特徴]

1. ‘コリンズ’は、7月中旬頃から収穫盛期を迎える早生種である。豊産性で、食味濃厚、果肉の締まりが良く、果実の揃いも良い。
2. ‘ブルークロップ’は、7月下旬に収穫盛期を迎える中生種である。豊産性で、甘酸のバランス良く、香りも良い。ブルームが多く外観優れる。収穫後、軟化しにくく貯蔵性は高い。樹勢が強く新梢が出やすいため栽培しやすい。
3. ‘ブルーレイ’は、7月下旬に収穫盛期を迎える中生種である。豊産性で、甘酸のバランス良く食味良好で、果皮薄く果肉の締まりがよい。樹勢が強く新梢が出やすいため栽培しやすい。
4. ‘シエラ’は、7月下旬に収穫盛期を迎える中生種である。やや酸味が強いが香りが良く食味濃厚で、ブルームが多く外観優れる。貯蔵性は非常に高い。樹勢は中位で収量も中位である。

[普及対象範囲]

県北地域

[普及・参考上の留意事項]

本結果は鹿角分場9号圃に3.0×1.5mで栽植した2年生苗の樹齢4年生以降の調査を取りまとめたものである。植え付けにはピートモスを用い、土壌管理は樹冠下清耕・列間草生として、樹冠下に有機質マルチとしておが屑およびバークを厚さ10cm程度敷きつめた。施肥は4月と6月の年2回、硫安を根元に少量施用した。殺虫剤、殺菌剤は無散布である。なお、植え付け後は4年生樹になるまで摘花し結実させなかった。

[具体的なデータ等]

表1 「コリンズ」の果実品質

調査年度	収穫始 (月・日)	収穫盛期 (月・日)	1樹収量 (g)	平均果重 (g)	糖度 (%)	酸度 (pH)
平成17年	7.19	7.19	3182	1.9	12.5	3.00
16年	7.9	7.21	1649	2.0	13.3	3.00
15年	7.7	7.23	997	2.0	13.2	3.01

値は5樹の平均値

表2 「ブルークロップ」の果実品質

調査年度	収穫始 (月・日)	収穫盛期 (月・日)	1樹収量 (g)	平均果重 (g)	糖度 (%)	酸度 (pH)
平成17年	7.26	7.26	1599	2.0	11.2	3.08
16年	7.23	7.23	2050	1.7	10.6	3.10
15年	7.23	7.23	1376	2.0	12.5	3.00
14年	7.15	7.29	730	2.4	10.6	2.95

値は3樹の平均値

表3 「ブルーレイ」の果実品質

調査年度	収穫始 (月・日)	収穫盛期 (月・日)	1樹収量 (g)	平均果重 (g)	糖度 (%)	酸度 (pH)
平成17年	7.19	7.26	1525	2.4	11.3	2.98
16年	7.21	7.29	3760	1.8	9.0	3.40
15年	7.13	7.23	2381	2.1	12.3	3.03
14年	7.15	7.29	1657	2.6	9.4	2.92
13年	7.25	7.31	564	2.0	11.0	2.63

値は5樹の平均値

表4 「シエラ」の果実品質

調査年度	収穫始 (月・日)	収穫盛期 (月・日)	1樹収量 (g)	平均果重 (g)	糖度 (%)	酸度 (pH)
平成17年	7.19	7.26	1400	2.0	11.8	2.90
16年	7.21	7.29	1731	1.7	10.2	3.20
15年	7.23	7.23	887	1.8	12.9	2.95

値は5樹の平均値

[発表文献等]

なし